

2014 年 文化財切手カレンダー



松林図屏風

制作年代は未詳であるが、長谷川等伯の作風の変遷から文禄2-4年（1593-95年）頃、等伯50歳代の作と推定されている。文禄元年（1592年）等伯が祥雲寺障壁画（現・智積院襖絵）を完成させた翌年、息子の久蔵が26歳の若さで亡くなっており、その悲しみを背負った等伯が、人からの依頼ではなく自分自身のために描いたとも言われる（ウィキペディア）



1969.7.21 発行
国宝シリーズ



（右隻）・長谷川等伯作 紙本墨画、六曲一双、各縦 156.8cm 横 356.0cm の屏風画



（左隻）

2014 年

1 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

平家納経

平安時代に平家一門がその繁栄を願い、厳島神社に奉納した經典類の総称。

法華経 30 卷、阿弥陀経 1 卷、般若心経 1 卷、平清盛自筆の願文 1 卷と、経箱・唐櫃からなる。經典に施された装飾は絢爛豪華で、平家の栄華を今に伝えている。平安時代の装飾経の代表作で、当時の工芸を現代に伝える一級史料でもある。經典を筆写したのは平家の一族で、清盛・重盛・

頼盛・教盛など。それぞれ一巻を分担する形で筆写した。長寛 2 年(1164 年)に厳島神社に奉納されたが、各巻の奥書を参照すると、全体の完成には仁安 2 年 (1167 年) までかかったことがわかる。全点が昭和 29 年 (1954 年)、国宝に指定された。現在厳島神社が所蔵しており、複製が厳島神社宝物館で公開されている。(ウィキペディア)



1977.1.20 発行
第 2 次国宝シリーズ



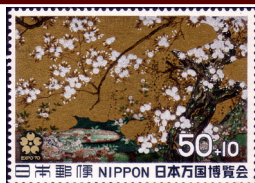
2014 年 2 月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	23	27	28	

智積院の 長谷川等伯 一門障壁画

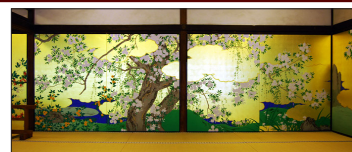
総本山智積院は、真言宗智山派三千カ寺の総菩提所・総祈願所で、京都東山に位置する。その智積院には、数々の伽藍と多くの貴重な文化遺産があります。特に長谷川等伯（1539-1610）とその弟子達によって描かれた「楓図」「松に立葵図」や「桜図」は、桃山時代を代表する障壁画である。25面に描かれ、多くが国宝。



桜図 1968.3.15 発行
大阪万国博覧会
寄附金付



障壁画として
復元



楓図 部分



松に草花図

2008.10.1 発行
旅の風景シリーズ 第2集



1977.11.16 発行
第2次国宝シリーズ



2014 年

3 月

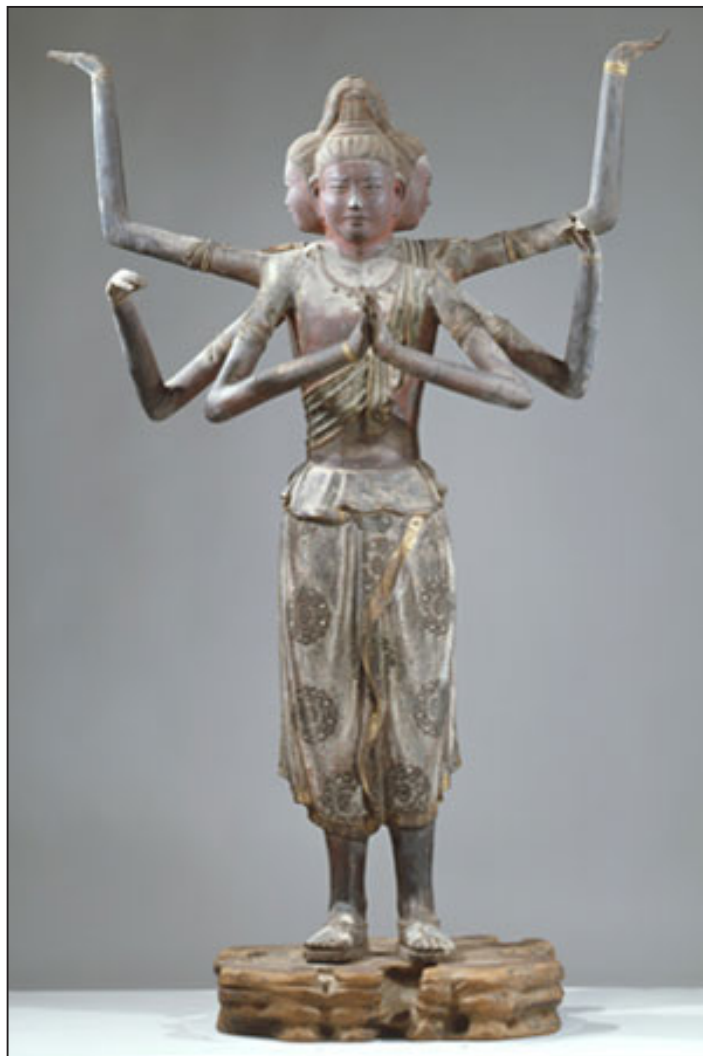
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

阿修羅像

乾漆造 彩色 奈良時代 像高 153.4cm 国宝
興福寺国宝館蔵

梵語(ぼんご)(古代インド語)のアスラ(A sura)の音写で「生命(asu)を与える(ra)者」とされ、また「非(a)天(sura)」にも解釈され、まったく性格の異なる神になります。ペルシャなどでは大地にめぐみを与える太陽神として信仰されてきましたが、インドでは熱さを招き大地を干上がらせる太陽神として、常にインドラ(帝釈天)と戦う悪の戦闘神になります。仏教に取り入れられてからは、釈迦を守護する神と説かれるようになります。

像は三面六臂(さんめんろっぴ)、上半身裸で条帛(じょうはく)と天衣(てんね)をかけ、胸飾りと臂釧(ひせん)や腕釧(わんせん)をつけ、裳(も)をまとい、板金剛(いたこんごう)をはいています。(興福寺)



左 1968.2.1 発行 第1次国宝シリーズ
中 2009.3.2 発行 旅の風景シリーズ 第5集
右 2002.6.21 発行 第2次世界遺産 古都奈良の文化財

2014 年

4 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

八橋蒔絵螺鈿硯箱

木製漆塗 尾形光琳作
縦 27.3 横 19.7 高 14.2
江戸時代 国宝 東京国立博物館蔵

『伊勢物語』第九段三河国八橋の情景を描いた硯箱。
ここには物語絵にありがちな説明的な要素はなく、主題
の本質を鋭く追求する文様構成と装飾材料の大胆な用法
が見るものの目を引く。光琳蒔絵の特質をはっきり示し
た彼の代表作である。(東京国立博物館)



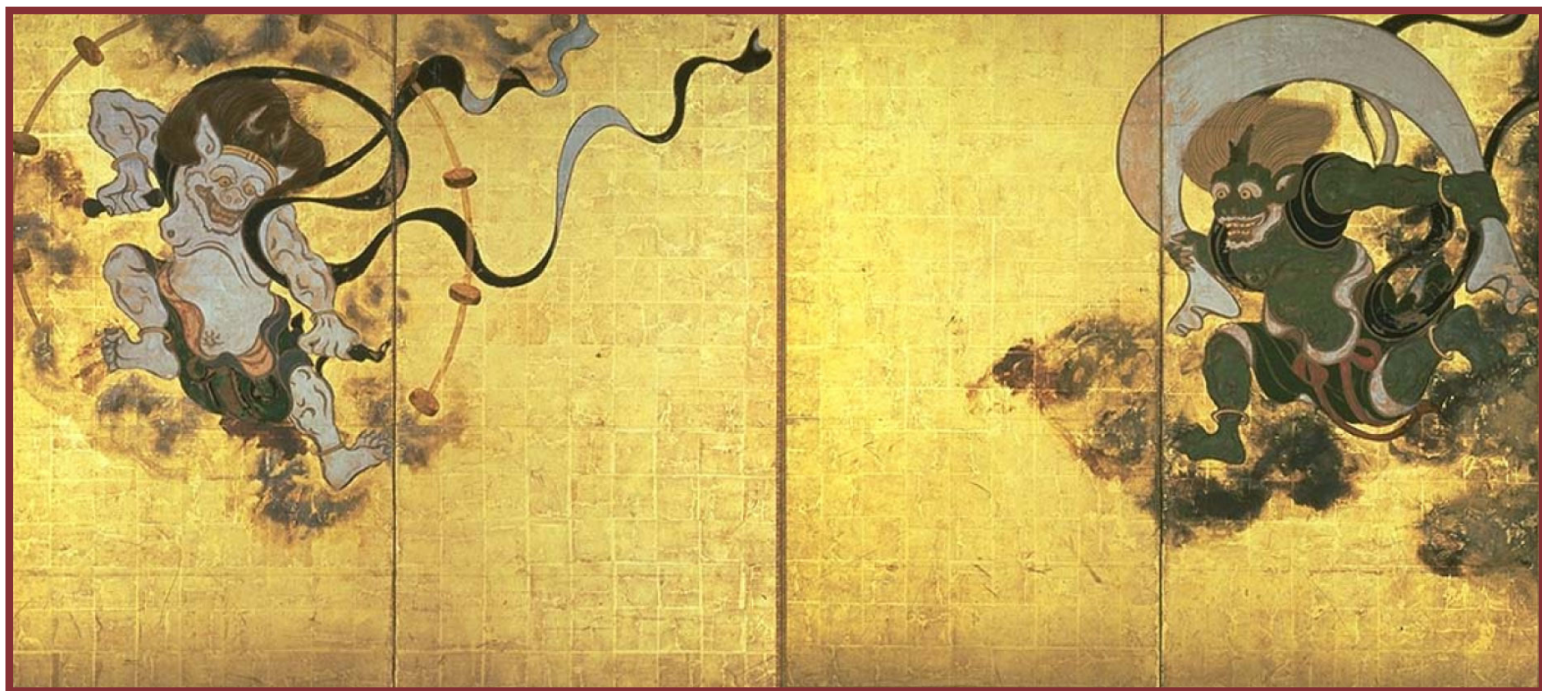
1955.3.15 発行 普通切手
1987.5.26 発行 第3次国宝シリーズ



2014 年

5 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



風神雷神図

2曲1双・紙本金地着色、各 154.5 × 169.8cm、建仁寺蔵（京都国立博物館に寄託）。落款、印章はないが、宗達の真筆であることは疑われていない。17世紀前半寛永期、宗達最晩年の作とする説が有力だが、法橋印が無いことや、おおらかな線質が養源院の杉戸絵と共通することから元和末期（1624年）頃の作とする説もある。現在では極めて有名な絵であるが、江戸時代にはあまり知られておらず、作品についての記録や、言及した文献は残されていない。京都の豪商で歌人でもあった打它公軌（うだ きんのり？ - 正保4年（1647年））が、寛永14年からの京都妙光寺再興の際に製作を依頼したとされるが、それを示す直接の文書はなく、これ以外に制作事情や伝来についての史料は見つかっていない。後に建仁寺に渡ったという。国宝



1962.7.2 発行
普通切手



1966.12.20 発行
普通切手



1971.12.1 発行
普通切手

2014 年

6 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

色絵雉香炉

野々村仁清作 ほぼ等身大の雉の香炉で、京焼の祖といわれる仁清の彫塑的な作品のうちでも特にすぐれている。上下二つに分かれ、蓋に4個の煙出し孔がうがたれ、胎土はわずかに黄色味をおびている。緑、紺青、赤などの絵具と金彩で、羽毛などを美しく彩った豪華な作品で、尾を水平に保って造形、焼成するなど至難な技が駆使され、緊張感あふれる作となっている。

(石川県立美術館)



色絵雌雉香炉

色絵雌雉香炉：野々村仁清／ほぼ等身大の雉の姿をした香炉である。後を振り返って、その嘴の先は左背の羽毛にかかり、尾は約45度の傾斜でピンと張る。面部は赤や金彩、眼の縁に僅か青の絵具を用いるほか、体の全体を濃淡の銀彩とし、それが酸化のためやや黒味を帯びる。蓋の背の箇所に羽毛の形をした煙出し用の孔4個がうがたれ、裏部は頸に相当する部分から孔部にかけて白釉がかかり、それ以外を無釉とする。また身部の底を露胎とし、前方胸寄りに「仁清」幕印が捺される。重要文化財 (石川県立美術館)



1969.9.25 発行
国宝シリーズ切手

2014 年		7 月				
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

縄文のビーナス

1986年9月に八ヶ岳山麓の長野県茅野市米沢に位置する棚畑遺跡から発掘された大型土偶。環状集落の中央広場から完全な状態で出土し、妊婦を象っており、27cm/2.14kg。1995年に国宝指定。茅野市尖石縄文考古館所蔵。

尖石縄文考古館

国特別史跡「尖石遺跡」を中心とする史跡公園のセンターとして建設されました。館内には、美的感覚の優れた国宝「土偶」（縄文のビーナス）を中心に、たくましい力動感あふれる豪壮な土器や黒曜石で作られた精巧な石器など2000点余りの縄文時代の遺物が展示してあります



1998.4.1 発行
ふるさと切手
縄文のビーナス(土偶)
背景にアルプスの山並み



2014 年

8 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

音声菩薩

金銅八角燈籠は東大寺大仏殿正面に立つ燈籠、火袋に楽器を奏する音声菩薩と呼ばれる天女像の浮き彫り（4面）がある。他の4面は、扉になっており唐獅子が浮き彫りされている。国宝



横笛を奏でる音声菩薩



銅跋子（くわし）を奏でる音声菩薩



縦笛を奏でる音声菩薩



1966.6.20 発行
1972.6.10 発行
普通切手



竿（う）を奏でる音声菩薩

2014 年

9 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				



鳥獣人物戯画

京都市右京区の高山寺に伝わる紙本墨画の絵巻物。国宝。甲・乙・丙・丁と呼ばれる全4巻からなる。内容は当時の世相を反映して動物や人物を戯画的に描いたもので、戯画の集大成といえる。現在の漫画に用いられている効果に類似した手法が見られることもあって、「日本最古の漫画」とも称される。現在は甲・丙巻が東京国立博物館、乙・丁巻が京都国立博物館に寄託保管されている。



1990.10.5 発行
国際文通週間



1977.3.25 発行
国宝シリーズ



2014 年

10 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

春日山蒔絵硯箱

木胎漆塗

高 4.9 奥行 23.9 幅 20.1

根津美術館 重要文化財

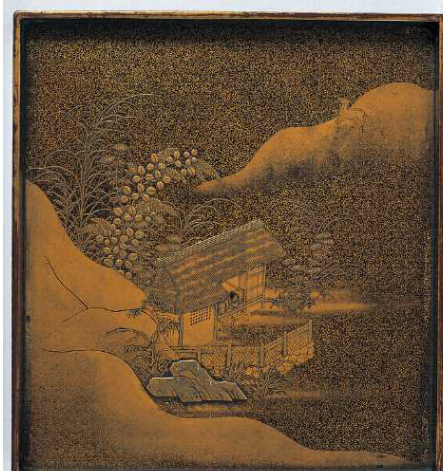
足利義政遺愛の硯箱。被蓋造（かぶせぶたづく）りの硯箱を梨子地とし、蓋表に女郎花や桔梗、薄、菰莢が生い茂り、三頭の鹿が佇む秋の野が満月に照らし出されている様を金研出蒔絵と高蒔絵であらわしている。蓋裏には山中の茅屋で鹿の声に耳を傾けているかのような男が描かれている。



1982.7.10 発行 普通切手

72 円切手 同図

1989.4.1 発行 普通切手



2014 年

11 月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

天燈鬼像 龍燈鬼像

桧材 寄木造 彩色
玉眼 鎌倉時代

鎌倉時代再興期の西金堂須弥壇に安置されていた像で、四天王像に踏みつけられる邪鬼を独立させ、仏前を照らす役目を与えたものです。

天燈鬼像。2本の角と3つの目を持ち、口を大きく開き、やや横目で前方をにらみ、左肩に乗せた燈籠を左手で支えます。

龍燈鬼像。腹前で左手で右手の手首を握り、右手は上半身に巻きついた龍の尻尾をつかみ、頭上に乗せた燈籠を上目づかいににらみます。像内に建保3年(1215)に法橋庚弁が造ったとする書きつけがあります。

阿と吽、赤と青、動と静とが対比的に表現された鬼彫刻の傑作です。(興福寺)
国宝 興福寺国宝館蔵



2002.6.21 発行
第2次世界遺産
古都奈良文化財



1974.11.11 発行
普通切手



2010.4.23 発行
平城遷都
1300年記念

2014 年

12 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			